

令和の里海づくりモデル事業

取組	磯焼けした海域でアカモク（ヒバマタ目ホンダワラ科に属する海藻）の増殖を実施。将来的に、再生・維持された藻場でJブルークレジットの活用等を行い、地域資源の保全と利活用の好循環創出を目指す。
概要	宗像沿岸域における藻場創出実証試験とブルーカーボンをクレジットによる好循環形成の検討。
背景	
地域資源	【自然】 - 低い山地や丘陵に囲まれた盆地状の地形（釣川下流部を除く） - 玄界灘に位置し、栄養を豊富に含んだ植物プランクトンが大量に発生するため、日本有数の豊かな漁場となっている 【海産物・食】 - 海女の発祥地ともされ、ウニやアワビ等が漁獲されるほか、トラフグやアジ、アナゴ等が特産として、ブランド化されている - 海藻類は、冬季に天然ワカメの素潜り漁が行われており、皇室への献上ワカメとして知られている。また、アカモクは近年スーパーフードとして出荷が伸びている 【歴史・文化・町並み】 - 海域内の沖ノ島が「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の構成資産の一つとして、ユネスコにより世界文化遺産に登録 【アクティビティ】 - 海水浴場やサーフィン等のマリンスポーツ
地域課題	- 磯焼けによる藻場の減少 - 漁業者の高齢化と担い手不足 - 地域の魅力向上

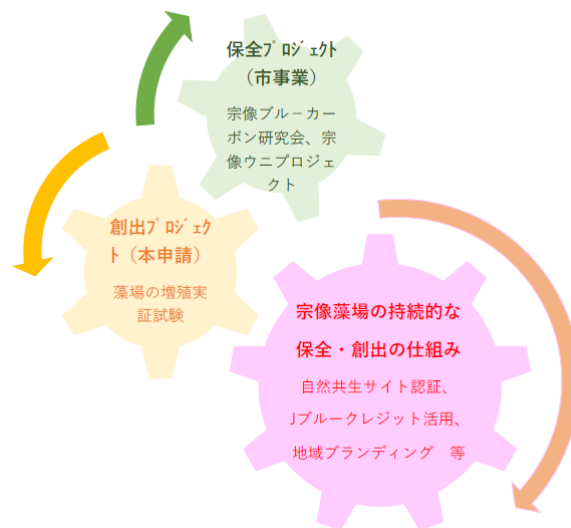
保全と活用の好循環形成に向けた将来ビジョン

【保全】

- 磯焼けした海域における藻場の創出を目指し、アカモクの増殖実証試験を実施。
- 増殖施設でのアカモクの生長状況や食害生物であるウコの個体数等を記録するモニタリング調査を実施。

【好循環形成・促進】

- Jブルークレジットの活用や自然共生サイトの認証取得等により、民間の資本も呼び込みながら、漁業者、地域関係者が連携して取り組み、地域資源の保全と利活用（ヒト・モノ・資金など）の好循環を創出することを目指す。
- 有識者、民間企業等とも意見交換や協力体制を構築しながら、次年度以降の実施内容を検討。
- 確実に取り組みを進めるため、漁協等との関係構築を優先して実施。現段階で各関係者が参画する協議会等は発足していないため市の考える好循環のビジョンを整理し、漁協と意見交換会を実施。



作成：宗像市

令和の里海づくりモデル事業での取組	
取組	磯焼けした海域でアカモク（ヒバマタ目ホンダワラ科に属する海藻）の増殖を実施。将来的に、再生・維持された藻場でJブルークレジットの活用等を行い、地域資源の保全と利活用の好循環創出を目指す。
主な実施内容	【令和5(2023)年度】 - 福岡県の技術指導による「リ網方式」でのアカモクの増殖施設設置 - モニタリング調査（アカモクの株数や草丈、ウニの個体数の記録）を実施 - 好循環形成ビジョン検討
成果	4地区9箇所で増殖施設を設置し、モニタリング調査を実施（※植食性魚種による食害の影響を考慮し、水温が低下した12月に増殖施設を設置）。 - 好循環形成に向けて漁協と協議を複数回実施した他、今後の実施方針やJブルークレジット申請に向けた検討について、意見交換会を実施。
今後の課題・展望	活動主体となることが期待される漁業者や市民活動団体など様々なステークホルダーが共通の課題意識やビジョンを持った体制構築を目指し、意見交換などコミュニケーションが図れる機会を形成する。



設置した網



地元中学生等によるアカモクの種苗取り付け



網に取り付けられたアカモクの種苗